

熊本市における道路の通称名を使った歩行者誘導の取組みについて

熊本市 都市建設局 道路整備課

1. 熊本市の紹介

熊本市は、九州の中央に位置し、明治以来、九州における行政の中心として各種の官庁が置かれ、また、学術研究機関などが数多く立地しています。これまで合併による市域の拡大と都市機能の集積を重ね、人口約74万人、面積約390km²の九州中央の交流拠点都市として発展してきました。平成24年4月1日には、全国で20番目、九州で3番目となる政令指定都市へ移行しました。

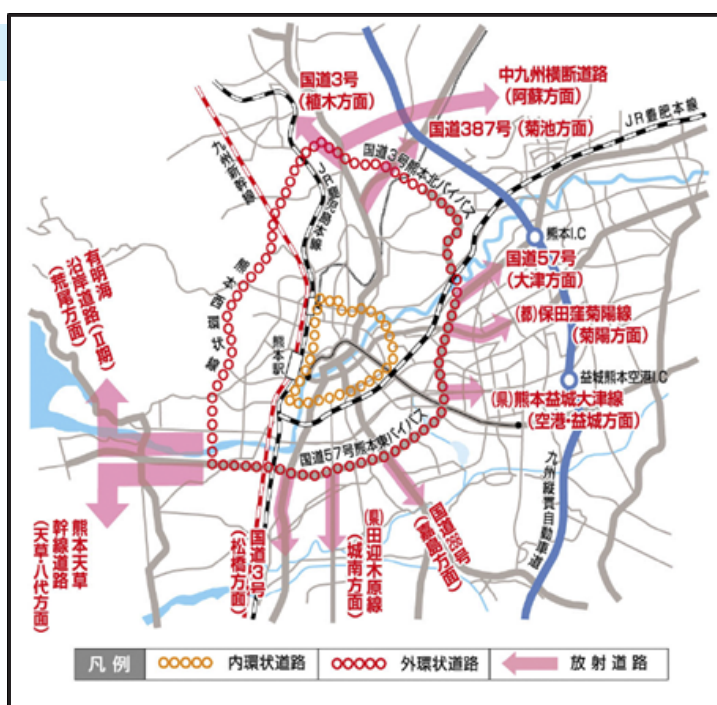


本市は、現在、平成23年3月の九州新幹線全線開業と政令指定都市移行の相乗効果を生かしつつ、雄大な熊本城を中心とした歴史・文化、74万市民の水道水源を全て賄う豊富な地下水や森の都と称される豊かな緑、農水産物、さらには優れた医療環境や大学等の高等教育機関の充実など、本市の魅力や暮らしやすさに更に磨きをかけ、「誰もが憧れる上質な生活都市くまもと」の実現を目指しています。

2. 熊本市の道路事業の概要

平成24年4月1日の政令指定都市への移行に伴い、本市は、県から市域内の国県道の整備、維持管理を引き継ぎました。現在、渋滞の緩和を図り、安全で快適な道路環境を確保するため、熊本都市圏の骨格となる2環状11放射道路網をはじめ、都市間を結ぶ広域道路網やスマートインターチェンジの整備等、市域内の道路網の一体的な整備を推進しています。

また、道路や橋梁の長寿命化を図るため、「橋梁長寿命化計画」及び「舗装維持管理計画」を策定し、計画的かつ適切な維持管理を行うことで、安全かつ快適に利用することができる環境づくりを進めています。



2環状11放射道路

このような中、今回ご紹介します事例は、平成23年3月の九州新幹線全線開業を控え、開業により中心市街地における観光客やビジネス客等の増加が想定されるとして、歩行者が目的地まで円滑な移動ができる道路環境を提供するため、道路の通称名を使った案内板の整備に取り組んだものです。

3. 道路の通称名を使った歩行者誘導の取組みについて

(1) 背景と目的

熊本市においては、平成23年の九州新幹線全線開業に合わせて、本市を訪れる観光客、ビジネス客等が、目的地まで道に迷うことなく熊本を満喫することができるよう、新幹線開業までに市内の移動円滑化についての対策を講じることを目的として、市役所の関係部局による「移動円滑化向上プロジェクト」を立ち上げました。

そのプロジェクトの課題の一つに、新幹線が到着する熊本駅から中心市街地の目的地までの案内、また、中心市街地における熊本城などの施設や通りの案内等が不十分であるということがありました。

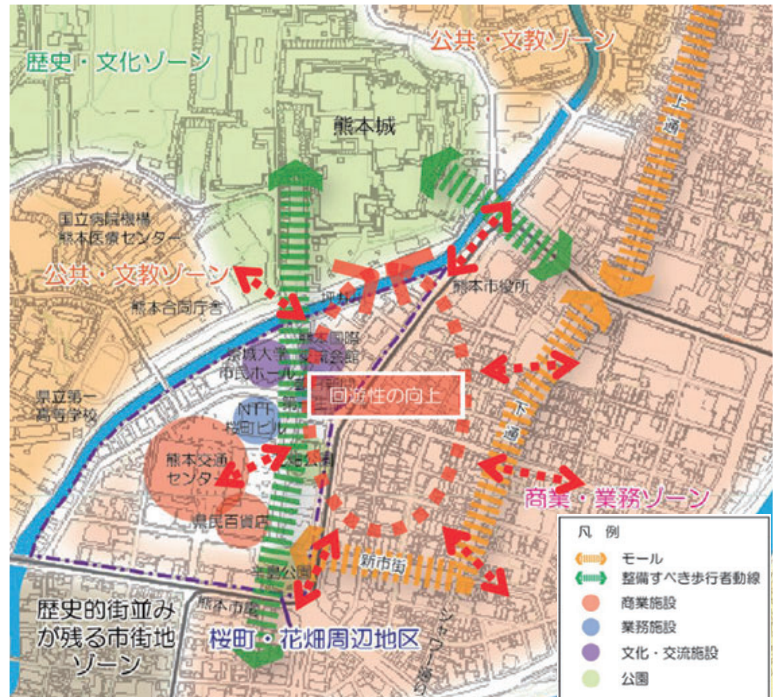
熊本市の中心市街地の道路は、主要3モール（上通り、下通り、サンロード新市街）と、それらに連結する多くの通りによって構成されています。中心市街地は高い集客力を維持しておりますが、通行量が減少傾向にある地区があり、また、熊本城周辺への回遊性の向上が課題となるなど、歩行者の円滑な移動や快適な歩行空間等を確保し、活力と賑わいに満ちたまちなか空間の形成が求められていました。また、主要3モールに連結する通りは、市民に通称名で呼ばれており、親しみを持って利用されているものの、名称が表示されているものが少なく、観光客等来訪者に分かりづらいといった課題がありました。

この様な状況を解消し、市民はもとより、来訪される方々の中心市街地での移動を円滑にし、まちなかの回遊性を高めるため、歩行者案内板を視認性の高いものに見直すとともに、道路の通称名を使ったストリート案内板を効果的に配置し、「わかりやすい道案内」を実現することとしました。

取り組みに際しては、国、県、JR、民間等と連携して推進するとともに、案内表記は、海外からの観光客等の増加を視野に入れ、国際化に対応するため4ヶ国語（日、英、中、韓）表記にすることにしました。

(2) 通りの通称名の決定方法

通りの通称名については、平成12年に設置された国、県、市の道路関係部署で構成する「熊本市道路通称名に関する研究会」の中で、歴史的経緯や地元での浸透等、様々な観点を踏まえて通称名の検討がなされていたことから、この研究会で決定された名称を通りの通称名とすることを基本としました。また、上記の研究会での検討結果と、広く市民に認知されている通称名が一致していない場合、あるいは通称名が存在しない場合については、地元自治会等との調整を行い、意見の集約を図り、通称名とし



通町・桜町地区の回遊性の向上

で決定することとしました。決定した通りの通称名及び地図は、別表1及び図1のとおりです。

別表1 道路の通称名一覧

モジュール	通称名	通称名(よみ)	モジュール	通称名	通称名(よみ)	モジュール	通称名	通称名(よみ)
上通	並木坂	なみきざか	下通	銀杏北通り	ぎんなんきたどおり	下通	シャワー通り	しゃわーどおり
	上通りアーケード	かみとおりあーけーど		銀杏中通り	ぎんなんなかどおり		駕町通り	かごまちどおり
	上乃裏通り	かみのうらどおり		銀杏南通り	ぎんなんみなみどおり		南銀座通り	みなみぎんざどおり
	砲台通り	せきだいどおり		富士通り	ふじどおり		三年坂通り	さんねんざかどおり
	歩小路	かちこうじ		栄通	さかえとおり		武蔵小路	むさしこうじ
	坊主通り	ぼうずどおり		新栄通り	しんさかえどおり		相撲町通り	すもうまちどおり
	草葉町通り	くさばまちどおり		いちのいち通り	いちのいちどおり		銀座中通り	ぎんざなかどおり
	本竹通り	ほんたけどおり		クラブ通り	くらぶどおり		東銀座通り	ひがしぎんざどおり
	黒鉄通り	くろくわどおり		酒場通り	さかばどおり		東寿通	ひがしことぶきどおり
	桜井通り	さくらいどおり		銀座通	ぎんざどおり		ワシントン通り	わしんとんどおり
	長安寺通り	ちょうあんじどおり		光琳寺通	こうりんじどおり		安政町通り	あんせいまちどおり
	表参道通り	おもてさんどうどおり		西銀座通り	にしぎんざどおり		りんどう通り	りんどうどおり
	藪の内通り	やぶのうちどおり		ブルスコート通り	ぶーるすこーどおり		昇町通り	のぼりまちどおり
	オークス通り	おーくすどおり		玉屋通り	たまやどおり		歩町通り	かちまちどおり
下通	ラジオ通り	らじおどおり	サンロード新市街	さんろーどしんしがい	木戸組通り	きどぐみどおり		
下通	城見町通り	しろみちょうどおり	下通りアーケード	しもとおりあーけーど				



図1 通りの通称名の中心市街地図

(3) 歩行者案内板の見直し（門柱型歩行者案内板の改修）

市中心部における歩行者案内板の見直しに際しては、国、県、市の各道路管理者及び県警による検討組織を立ち上げ、実務者レベルでの協議を行い、設置計画の策定を行いました。また、案内板の設置に際しては、再開発を行っていた熊本駅の周辺地域サイン計画によるデザイン等の統一規格に準拠するものとし、設置箇所についても県警等を含む関係機関との協議により交通の起点からの導線や人の流れを確認し、絞り込んでいきました。

また、案内標識等の新設及び改修を行う際に適用すべき項目についての指針を示した「熊本市案内標識等見直し指針」を策定し、表記等の統一の徹底を図り、市中心部の案内板 42 基の改修を行いました。



【熊本市案内標識等見直し指針（概要）】

① 案内表記の統一

表記のゆれ等がないよう表記を統一する。

② 日英表記の徹底

日本語と英語での表記を徹底する。主要な案内標識等については、中国語、韓国語を加えた4カ国の表記に努める。

③ 矢印表記における距離表示の徹底

観光施設等への案内を矢印で表記する場合、当該施設までの徒歩による計測距離を10m単位で明示する。また、周辺状況に応じて、「矢羽根方式」の採用に努める。

④ フォント、ピクトサイン、地図の統一

熊本駅周辺地域サイン計画に基づき、駅周辺で使用するものと原則として統一を図る。

⑤ デザインの統一及びユニバーサルデザインへの配慮

原則として熊本駅周辺地域デザイン計画に基づき、高さや色合い、デザイン等の統一を図るとともに、ユニバーサルデザインに配慮する。なお、熊本城周辺及び中心部の色合いについては、周辺環境に配慮し、現行色のシティブラウンに統一する。

⑥ 案内対象施設の序列化

簡素で分かりやすい表示とするため、案内が必要な施設のランクをA・B・Cに区分し、案内標識のスペースに合わせ、施設のランクに応じた表示を行う。

(ア) Aランク：熊本城、市民会館など駅周辺をはじめ市内全域からの案内が必要な施設

(イ) Bランク：概ね半径1キロ以内から案内が必要な施設

(ウ) Cランク：概ね半径500m以内から案内が必要な施設

⑦ シティブランド「わくわく都市くまもと」の使用

市が改修または新設する案内板等については、「わくわく都市くまもと」のシンボルマーク等を表示する。

【案内板の規格】

- 案内板本体色……………熊本城等の周辺の景観に配慮し、現行色のシティブラウンを継承
- 材質及び寸法……………アルミ製 2,100 × 600 × 64 (mm)
- マップ……………グラフィックシート使用

【案内板の表示内容】

- 本体
 - 1) 表面
 - ・案内先を4カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語）で表記
 - ・案内先までの距離を記載
 - ・設置箇所の住所を記載
 - 2) 裏面
 - ・設置箇所の住所を記載
- マップ
 - ・スケールは半径300mを想定
 - ・現在地、通り名を記載
 - ・目的地名を強調
 - ・周辺の案内板の設置箇所を表記

周辺案内
Area Guide
周边指南 주변 안내

- 市電 熊本城・市役所前電停
Kumamoto Castle/City Hall Tram Stop
100m
- 熊本城入口(須戸口門)
Kumamoto Castle Entrance (Sudoguchi Gate)
380m
- 桜の馬場 城彩苑
Sakuranobaba Josaien
380m
- 市現代美術館
City Modern Art Museum
380m
- 崇城大学市民ホール(市民会館)
Citizen's Center
440m

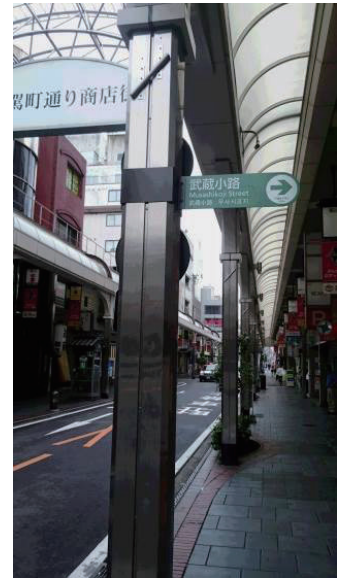
ここは手取本町1番
This is Tetorihoncho Ward 1
这里是手取本町1番
여기는 데토리혼초 1번지

	市電 熊本城・市役所前電停 Kumamoto Castle/City Hall Tram Stop 市电 熊本城・市役所站 구마모토성·시청 앞 전차정류장	100 (m)	↑	ここは手取本町1番 This is Tetorihoncho Ward 1 这里是手取本町1番 여기는 데토리혼초 1번지
	熊本城入口(須戸口門) Kumamoto Castle Entrance (Sudoguchi Gate) 熊本城入口(須戸口門) 구마모토성 입구(스도구치문)	380	↗	
	桜の馬場 城彩苑 Sakuranobaba Josaien 櫻之马场 城彩苑 사쿠라노바바 조사이엔	490	↖	
	市現代美術館 City Modern Art Museum 市现代美术馆 구마모토시 현대미술관	380	↘	
	崇城大学市民ホール(市民会館) Citizen's Center 市民会馆 시민회관	440	↖	

Map showing landmarks such as 熊本合同庁舎, 崇城大学市民ホール, 国際交流会館, 熊本城, 市役所, 市現代美術館, 熊本ホテルキャッスル, 市現代美術館, and 熊本銀座. Includes a scale bar from 0 to 200m and a '現在地 You Are Here' marker.

(4) ストリート案内板の設置

これまで記述した視認性の高い歩行者案内板と併せ、「わかりやすい道案内」の効果を高めるために、道路の通称名を表示するストリート案内板の整備を行いました。特に、ストリート案内板は、市民はもとより、来訪される方々にも中心市街地を迷うことなく散策していただくことにより、中心市街地の飲食店等への移動を円滑化し、まちなかの回遊性を高める狙いがあります。案内する通りは45路線で、中心市街地の92箇所効果的に設置しました。また、ストリート名による分かり易い案内の普及のため、地元商店街関係者に対して、店舗までのアクセスを説明する際に、ストリート名を明示するなどの協力を依頼しました。設置に際しての基本方針は次のとおりです。



【設置に関する基本方針】

- 通り名は、前述の3の(2)において決定した名称とする。
- ストリート案内板は、通りの起点、終点に設置する。
- ストリート案内板は、市設置の照明灯への添架を基本とする。国道3号など添架させる物がない箇所はポール新設にて対応する。また、アーケード内については支柱へのシート貼付を基本とする。
- 表記は、日本語・英語・中国語・韓国語の4カ国語とする。
- 3モールに連絡するストリート案内板については、モールまでの距離を記載する。
- 案内板の基本色はグリーンとする。



中心市街地のストリート案内板設置箇所

(5) 結びに

全国には、通り名がその地域のイメージとなって多くの人に知られることで、観光や経済に大きな影響を与えている事例が多々あります。本市は、この通称名を活用した案内標識の取組みを通して、中心市街地に対する市民の親しみや愛着が一層深まり、人や物の流れが活性化してまちの賑わいに繋がるとともに、観光客やビジネス客、外国の方々には、熊本を満喫し、より身近に感じていただき、国内や海外に対しての本市の魅力発信につなげていきたいと考えています。